

佛蘭西  
文學  
史  
六

CF2  
3  
07

東京圖書館	
新門	一
部	一
架	一
號	四九

共十六本



明治九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

辻士革筆受

仙蘭西

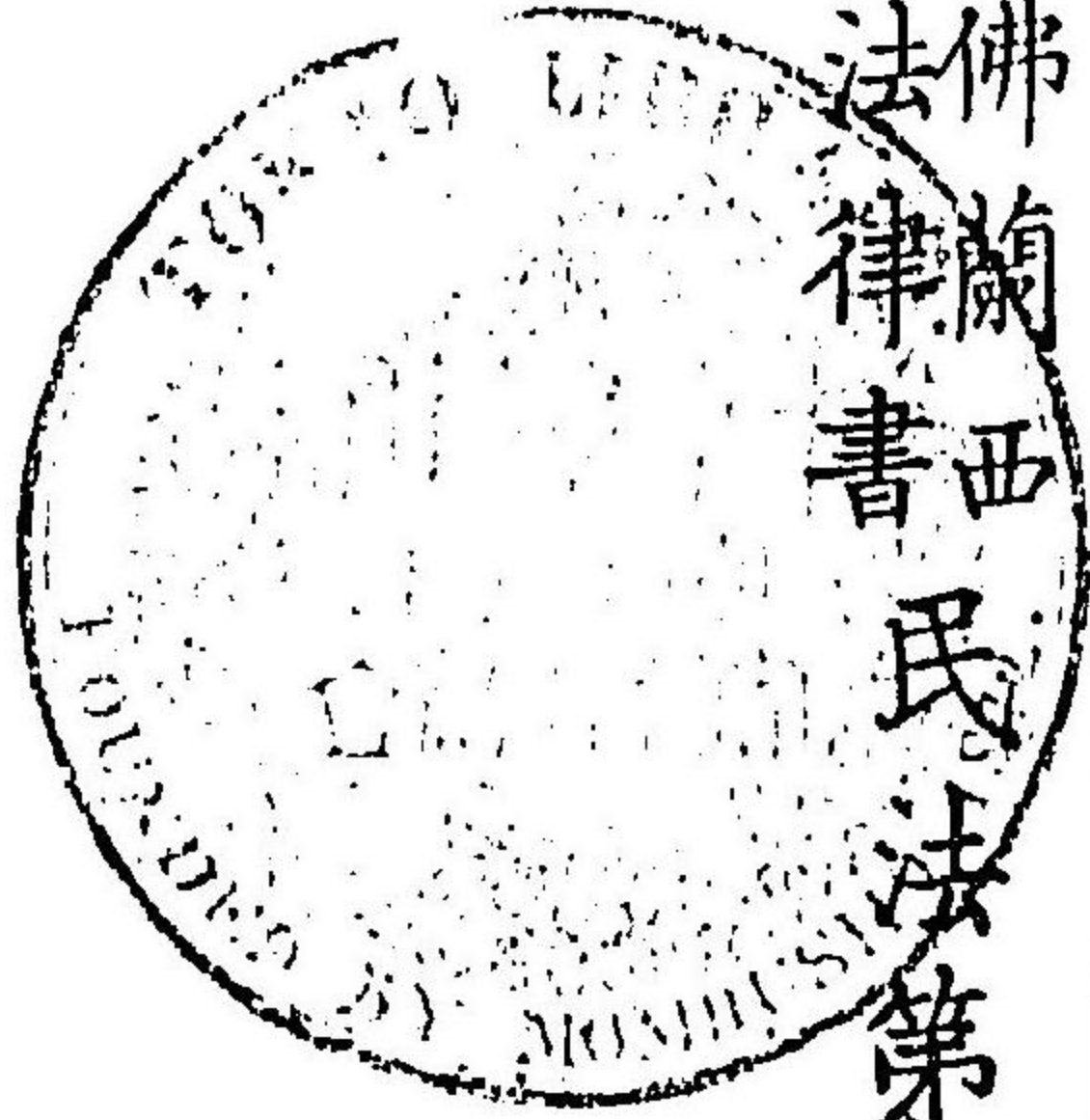
法律書

民法

文部省

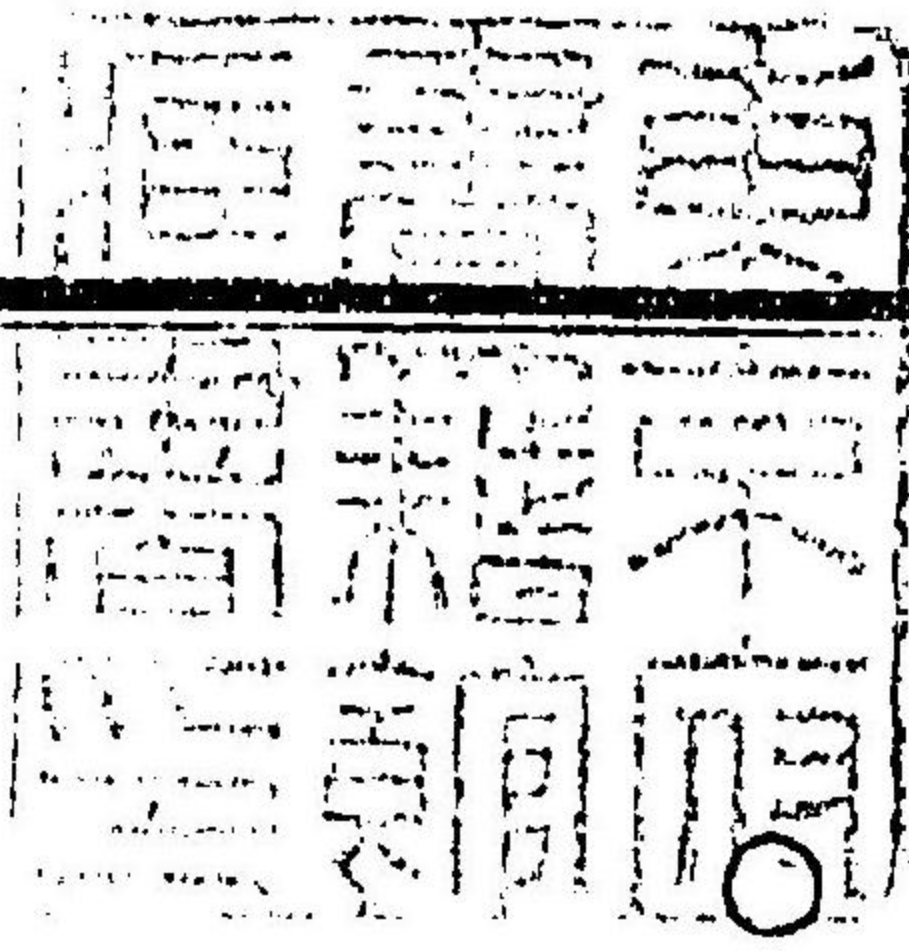
CF2  
3  
07

佛蘭西民法第六  
法律書



文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付



○第二卷

生存中ノ贈遺ノ證書及ヒ遺囑ノ贈遺ノ證書千八百三年第五月三日決定同月十三日布告

○第一章 總規則

第八百九十三條 凡ソ財産ハ後ニ記スル所ノ法式ニ從ヒ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ

佛蘭西民法

第三編第二章第一章

一

明治九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

辻士革筆受

仙蘭西

法律書

民法

文部省

CF2  
3  
07

東京書籍

東京書籍



佛蘭西民法第六

文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

第二卷 生存中ノ贈遺ノ證書及ヒ遺囑

ノ贈遺ノ證書千八百三年第五月三日  
決定同月十三日布告

○第一章 總規則

第八百九十三條 凡ノ財産ハ後ニ記スル所ノ  
法式ニ從ヒ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ

佛蘭西民法

第三篇第二章第一章

第六百九十三條

為スノ外償ヲ得スレテ之ヲ人ニ與フルヲ得ス

第八百九十四條 生存中ノ贈遺ノ證書トハ贈遺ヲ為ス者其贈遺ヲ受ルヲ承諾スル者ノ為メ自己ノ財産ヲ即時ニ讓リ與フル證書ヲ云フ但シ此證書ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルヲ得ス

第八百九十五條 遺囑ノ贈遺ノ證書トハ其贈遺ヲ為ス者其死シタル後自己ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ人ニ與フル證書ヲ云フ但シ此證

書ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第八百九十六條

生存中其贈物ヲ保有シ其死後ニ嘗テ其贈遺ヲ為タル者ノ定メ置キタル者ニ其財産ヲ讓リ與フ可キハ之ヲ禁止ス

生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ヲシテ其受クル所ノ財産ヲ保有セシメ其死スル時其贈遺者ノ預定シタル人ニ之ヲ讓ラシムルノ約定ハ縱令ヒ其贈遺ヲ受ル者之ヲ承諾スルト雖モ其効ナカル可シ然レ皇帝ヨリ皇族ニ別段與ヘタル世襲ス可キ不動産ハ之

ヲ負債ノ質ト為シタル時ノ外千八百六年第  
 三月三十日ノ命令書及ヒ第四月十四日ノ命  
 令書ヲ以テ規定シタル如ク之ヲ世襲ス可シ  
 第八百九十七條 此卷ノ第六章ニ父母兄弟姉  
 妹等ノ贈遺ニ付キ別段定メタル規則ハ前條  
 ニ記スル所ノ例外ナリトス

第八百九十八條 生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈  
 遺ヲ受ク可キ者若シ其贈遺ヲ受ルコトヲ承諾  
 セス又ハ事故アリテ其贈物ヲ受ルコト能ハサ  
 ルニ於テハ贈遺者ノ定メタル人ニ其贈遺ヲ

為ス可キノ約定ハ「レ」ト看做  
 ス可カラス之ヲ法律上ニテ允許シタルモノ  
 ト為ス可シ

第八百九十九條 一人ニ財産ノ入額ヲ得可キ  
 ノ權ヲ與ヘ又一人ニ其財産ヲ所有スルノミ  
 ノ權ヲ與フル生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺  
 ノ約定ハ亦前條ニ記スル所ノ約定ノ如ク法  
 律上ニテ允許シタルモノトス

第九百條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為  
 スニ付キ人ノ行ヒ能ハサル事ヲ為サシムル

約定書又ハ法律及ヒ風儀ヲ害スル事ヲ為サ  
シムル約定書ハ初メヨリ全ク之ヲ記セサル  
モノト看做ス可シ

○第二章 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈  
遺ヲ為シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ  
之ヲ收受スルニ必要ナル諸件

第九百一條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ  
為スニハ精神ノ昏迷セサルヲ必要トス

第九百二條 法律上ニ於テ別段制禁ヲ受ケタ  
ル者ノ外何人ニ限ラス生存中ノ贈遺及ヒ遺

囑ノ贈遺ヲ為シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ其  
贈遺ヲ收受スルヲ得可シ

第九百三條 十六歳以下ノ幼者ハ此卷ノ第九  
章ニ記載スル所ノ外何レノ方法ヲ論セス自  
己ノ財産ヲ人ニ贈與スルヲ得ス

第九百四條 十六歳以上ノ幼者ハ遺囑ノ贈遺  
ヲ為スノ外其財産ヲ人ニ贈與スルヲ得ス  
且其遺囑ノ贈遺ヲ以テ人ニ贈與スルヲ得  
可キ財産ハ丁年者人ニ贈與スルヲ得可キ  
財産ノ半ハノミトス

第九百五條 婚姻シタル婦ハ第二百十七條及  
 ヒ第二百十九條婚姻ニ記スル所ニ循ヒ其夫  
 ノ立會又ハ其立會ニ非ラスト雖モ別段夫ノ  
 許諾ヲ得又然ラサレハ裁判所ヨリノ允許ヲ  
 得ルニ非サレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ  
 人ニ贈與スルコトヲ得ス  
 然レ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與ス  
 ルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ允許ヲ  
 必要トセス

第九百六條 生存中ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可

キ為メニハ其贈遺ヲ為ス時之ヲ受クル者母  
 ノ胞内ニアルヲ以テ足レリトス  
 遺囑ノ贈遺ヲ受クルヲ得可キ為メニハ其贈  
 遺ヲ為ス者ノ死スル時之ヲ受クル者母ノ胞  
 内ニアルヲ以テ足レリトス  
 然レ其子出産シタル上生存ス可キハ證ナキ  
 時ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ効ナカ  
 ル可シ

第九百七條 幼者ハ縱令十六歳以上ニ至ルト  
 雖モ其後見人ニ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈

遺トシテ自己ノ財産ヲ贈與スルコトヲ得ス  
 又幼者既ニ丁年ニ至ルト雖モ後見人算計書  
 ヲ其幼者ニ渡シテ其算計ヲ為シ終リタル後  
 ニ非レハ其幼者生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈  
 遺トシテ後見人ニ己ノ財産ヲ贈與スルコトヲ  
 得ス

此二項ニ記シタル場合ニ於テ幼者ノ尊屬ノ  
 親其後見ヲ為シタル時ハ格別ナリトス

第九百八條 私生ノ子ハ此篇ノ第一卷遺物相  
續ノ卷  
 ニ其得可キ事ヲ記シタル遺物ノ外生存中ノ

贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ其父母ノ財産ヲ  
 受ク可カラズ

第九百九條 内科外科ノ醫師、下等醫師又ハ製  
 藥者病者ヲ診察シ其病者終ニ死シタル時ハ  
 其病ノ間其死者ヨリ醫師又ハ製藥者ニ為シ  
 タル生存中贈遺及遺囑贈遺ノ効ナカル可シ  
 然レ其死者ノ家産ト其醫師製藥者ノ勞力ト  
 ニ准シ其死者ノ隨意ニ為スコトヲ得可キ財産  
 中別段定メタル一部ヲ酬謝ノ證トシテ贈與  
 スル約定ハ前項ニ記スル所ノ例外ナリトス



又其死者ニ宗系ノ遺物相續人ナク其醫師又ハ製藥者其死者ノ第四級ニ至ル迄ノ血屬ノ親ナル時ハ其死者ノ隨意ニ為スヲ得可キ財産ノ全部ト雖モ之ヲ贈遺トシテ受クルコトヲ得可シ但シ其醫師又ハ製藥者其死者ノ宗系ノ遺物相續人タル時ハ其他ニ宗系ノ相續人アリト雖モ同上ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得可シ說教ノ僧ニ付テモ亦同上ノ規則ニ循テ可シ

第九百十條 貧院及ヒ「コンミューン」ノ貧者ノ為メ又ハ衆庶ノ裨益ヲ為サントシテ設ケタ

ル公ケノ建造物ノ為メ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ以テ財産ヲ贈與スル約定ハ皇帝ノ命令ニテ之ヲ允許シタル上ニ非レハ其効ナカル可シ

第九百十一條 贈遺ヲ受ク可カラサル者ノ為メ財産ヲ贈與スルノ約定ハ偽テ其償ヲ收ムル契約ノ體裁ニテ為スト雖モ又ハ介入スル者ノ名ヲ借テ為スト雖モ其効ナカル可シ贈遺ヲ受ク可カラサル者ノ父母子卑屬ノ親配偶者ハ介入者ト看做ス可シ

第九百十二條 〔千八百十九年第七月十四日ノ  
 法ヲ以テ廢ス〕外國人佛蘭西人ノ為メ贈遺ヲ  
 為スヲ得可キ時ノ外佛蘭西人外國人ノ為メ  
 贈遺ヲ為ス可カラス

○第三章 隨意ニ贈遺ト為スヲ得可キ  
 財産ノ定分及ヒ贈遺ト為シタル財  
 産ヲ減スル事

○第一款 贈遺ト為スヲ得可キ財産  
 ノ定分

第九百十三條 贈遺ヲ為ス者嫡出ノ子一人ヲ

遺ス時ハ自己ノ財産ノ半ハヲ生存中ノ贈遺  
 及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ人ニ贈與スルヲ得  
 可ク又嫡出ノ子二人ヲ遺ス時ハ其三分ノ一  
 ヲ贈與スルヲ得可ク若シ又三人以上ノ嫡  
 出ノ子ヲ遺ス時ハ其四分ノ一ヲ贈與スルヲ  
 得可シ

第九百十四條 前條ニ子ト記スル者ハ級ノ如  
 何ナルヲ問ハス卑屬ノ親ヲ終ヘテ之ヲ指シ  
 云フモノトス但シ卑屬ノ親代テ遺物相續ヲ  
 為スノミノ權ヲ有スル時ハ其卑屬ノ親數人

アリト雖氏之ヲ一人ト看做シテ算フ可シ  
 第九百十五條 贈遺ヲ為ス者子ヲ遺サスト雖  
 氏本宗外族ノ兩族ニ一人又ハ數人ノ尊屬ノ  
 親ヲ遺ス時ハ其財産ノ半ハノミヲ人ニ贈與  
 スルヲ得可シ又本宗及ヒ外族中ノ一族ノ  
 ミニ尊屬ノ親ヲ遺ス時ハ其財産ノ四分ノ三  
 ヲ贈與スルヲ得可シ  
 此ノ如ク尊屬ノ親ノ為メ別段遺シ置キタル  
 財産ハ其尊屬ノ親遺物相續ヲ為ス可キ定則  
 ノ順序ヲ以テ之ヲ相續ス可シ但シ死者ノ遺

物ヲ相續スル時此尊屬ノ親ノ權傍系ノ親ノ  
 權ト相觸レ其尊屬ノ親ノ相續ス可キ財産ノ  
 定數不足ナル時ハ尊屬ノ親其別段遺シ置キ  
 タル財産ヲ盡ク己レノ有ト為スヲ得可シ  
 第九百十六條 尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親ノ共ニ  
 アラサル時ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺  
 トシテ財産ノ全部ヲ人ニ贈與スルヲ得可  
 シ

第九百十七條 財産ノ入額ヲ得ルノ權又ハ畢  
 生間ノ年金ヲ得ルノ權ヲ生存中ノ贈遺又ハ

遺囑ノ贈遺トシテ贈與シタル時ハ其遺物相  
 續人其贈與ヲ為シタルコトヲ承諾ス可シ若シ  
 相續人之ヲ承諾セサル時ハ死者ノ遺物中ニ  
 テ其死者ノ贈遺ト為スヲ得可キ財産ノ定分  
 ヲ其贈遺ヲ受ケレ者ニ與ヘテ同上ノ權ヲ取  
 還スコトヲ得可シ

第九百十八條 畢生間ノ年金ヲ受取ル可キ約  
 束又ハ入額ヲ得可キ約束ヲ以テ嘗テ死者ヨ  
 リ遺物相續人中ノ一人ニ所有ノ權ヲ賣リ渡  
 シタル財産ノ價ハ贈遺ト為スヲ得可キ財産

ノ定分中ヨリ之ヲ差引ク可シ若シ其財産ノ  
 價贈遺ト為スヲ得可キ定分ニ過ル時ハ其餘  
 ヲ遺物ノ合部中ニ返還ス可シ○其差引及ヒ  
 返還ハ死者同上ノ約束ニテ財産所有ノ權ヲ  
 賣リ渡スコトヲ承諾シタル他ノ遺物相續人ヨ  
 リ之ヲ訴ヘ出ス可カラス又何レノ場合ニ於  
 テモ傍系ノ遺物相續人ヨリ之ヲ訴ヘ出ス可  
 カラス

第九百十九條 贈遺ト為スヲ得可キ財産ノ定  
 分ノ全部又ハ一部ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑

ノ贈遺トシテ其所有者己ノ子又ハ其他ノ遺物相續人ニ贈與スルヲ得可シ但シ其贈與ヲ為ス者後ニ其贈物ヲ遺物ノ合部中ニ返還スルニ及ハサルヲ別段定メ置キタル時ハ之ヲ返還スルニ及ハス

遺物相續人中ノ一人ニ財産ヲ贈與シ後ニ之ヲ遺物ノ合部中ニ返還スルニ及ハサルノ約定ハ之ヲ其贈遺ノ證書中ニ附記シ又ハ其贈遺ヲ為シタル後ニ贈遺ノ證書ニ等シキ體裁ノ證書ニ記ス可シ

○第二款 贈遺ト為シタル財産ヲ減スル事

第九百二十條 生存中ノ贈物及ヒ遺囑ノ贈物贈遺ト為スヲ得可キ定分ニ過ル時ハ遺物相續ヲ始ムル時之ヲ其定分ニ減ス可シ

第九百二十一條 法律上ニテ死者ノ財産ノ一部ヲ必ス相續ス可キ者又ハ其者ノ遺物相續人又ハ其者ノ權ニ代ル可キ者ハ生存中ノ贈物ヲ減スルノ訴ヲ為スヲ得可シ但シ其他ノ贈遺ヲ受ケシ者及ヒ死者ノ債主ハ之ヲ減

ス可キノ訴ヲ為スヲ得ス又之ヲ減スルニ因  
リ己レノ利益ヲ得ルヲ得ス

第九百二十二條 贈遺ノ財産ヲ減スルニハ先  
ツ其贈遺ヲ為シタル者ノ死セシ時存在シタ  
ル諸般ノ財産ヲ總括シ嘗テ生存中ノ贈遺ト  
シテ贈與シタル財産ヲ其贈遺ヲ為シタル時  
ノ模様ト其贈遺ヲ為シタル者ノ死去セシ時  
ノ價トニ准シテ之ヲ遺物ノ合部中ニ併合セ  
シモノト看做シ此諸般ノ財産中ヨリ負債ヲ  
差引キタル上其死者ノ贈遺ト為スヲ得可キ

財産ノ定數ハ幾許ナルヤヲ算計ス可シ

第九百二十三條 遺囑ノ贈遺中ニアル諸般ノ  
財産ヲ減シ盡クシテ尚不足ナル時ニ非レハ  
生存中ノ贈物ヲ減スルヲ得ス但シ數人ニ  
與ヘタル生存中ノ贈物ヲ減ス可キ時ハ其最  
終ノ贈物ヲ最初ニ減ス可シ若シ最終ノ贈物  
ヲ減シ盡クシテ尚不足ナル時ハ最終ヨリ第  
二次ノ贈物ヲ減シ其他次第ニ前ニ為シタル  
贈遺ニ及ホシテ之ヲ減ス可シ

第九百二十四條 遺物相續人中ノ一人嘗テ死

者ヨリ生存中ノ贈物ヲ受ケ其贈物ヲ減ス可  
キ時其贈物ト自カラ遺物相續人タルニ付キ  
相續ス可キ財産ト同一ノ種類ナルニ於テハ  
其贈物中ニテ自己ノ相續ス可キ財産ノ高ニ  
充ル迄ヲ保チ置クヲ得可シ

第九百二十五條 生存中ノ贈遺ノ價死者ノ贈  
遺ト為スヲ得可キ財産ノ定分ニ過キ又ハ之  
ニ等シキ時ハ總テ遺囑ノ贈遺ノ効ナカル可  
シ

第九百二十六條 若シ遺囑ノ贈遺ノ財産死者

ノ贈遺ト為スヲ得可キ定分ニ過クル時又ハ  
其定分中ヨリ生存中ノ贈遺ヲ差引キタル部  
分ニ過クル時ハ死者ノ財産全部ノ遺囑ノ贈  
遺ト別段指定メタル品物ノ遺囑ノ贈遺トノ  
差別ナク其贈遺ノ財産ノ高ニ准シテ之ヲ減  
ス可シ

第九百二十七條 然レ遺囑ノ贈遺ヲ為ス者一  
ノ贈遺ノ財産ヲ他ノ贈遺ノ財産ヨリ特ニ必  
ス贈與セント願フヲ明カニ定メ置キタル  
時ハ其願フ所ニ從ヒ其別段ノ贈物ヲ減ス可

カラス但シ他ノ贈遺ノ財産ノ全價ヲ以テ尚遺物相續人ノ為メ遺シ置ク可キ財産ノ價ニ充ルニ足ラサル時ハ格別ナリトス

第九百二十八條 生存中ノ贈遺ヲ受ケシ者其贈遺者ノ死去シタルヨリ一年内ニ贈物ヲ減ス可キノ求メヲ受ケル時ハ死者ノ贈遺ト為スヲ得可キ定分ニ過クル贈遺ノ財産ニ付キ其贈遺者ノ死去シタルヨリ以來得タル所ノ利益ヲ返還ス可シ若シ其一年ノ期限後ニ其求メヲ受ケタル時ハ之ヲ受ケン日ヨリ以來

得タル所ノ利益ヲ返還ス可シ

第九百二十九條 贈物ヲ減スルニ因リ嘗テ死者ヨリ贈遺トシテ與ヘタル不動産ヲ其遺物相續人ノ取戻ス時ハ其贈遺ヲ得シ者其不動産ニ付キ擔當シタル負債ヲ滌掃シテ之ヲ戻ス可シ

第九百三十條 不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者其不動産ヲ人ニ賣リ渡シタル時遺物相續人其不動産中ニテ死者ノ贈遺ト為スヲ得可キ定分ニ過キタル一分ヲ已レニ取戻サントスル



訴ハ其買入人ニ對シテ之ヲ為ス可シ但シ其  
 訴ノ方法ト順序トハ其贈遺ヲ受ケタル本人  
 等ニ對シテ為ス所ニ等シク且相續人ハ買入  
 人ニ對シ其訴ヲ為ス前ニ先ツ贈遺ヲ受ケタ  
 ル者ノ財産ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フ  
 テ其賣拂ニ因リ得タル代金尚不足ナル上ニ  
 テ其訴ヲ為ス可シ○其訴訟ヲ受クル順序ハ  
 其贈遺ヲ受ケシ者ヨリ最後ニ不動産ヲ買入  
 レタル者ヲ以テ初トシ次第ニ前ニ買入レタ  
 ル者ニ及ホス可シ

○第四章 生存中ノ贈遺

○第一款 生存中ノ贈遺ノ法式

第九百三十一條 生存中ノ贈遺ヲ為ス證書ハ

尋常ノ契約書ノ法式ヲ用ヒ「レテイル」ノ面前  
 ニ於テ之ヲ記シ其正本ヲ「レテイル」ニ渡ス可  
 シ若シ此事ヲ為サル時ハ其證書ノ効ナカ  
 ル可シ

第九百三十二條 生存中ノ贈遺ハ其贈遺ヲ受

クル者之ヲ承諾シタル旨ヲ贈遺ノ證書ニ記  
 入セシ日ヨリ後ニ非サレハ贈遺ヲ為ス者必

ス之ヲ執行フニ及ハス且其日ヨリ後ニ非サ  
 レハ其贈遺ノ効ヲ生スルコトナカル可シ  
 又贈遺ヲ為ス者ノ生存中ニ於テハ贈遺ヲ受  
 クル者其贈遺ノ證書ヨリ後ニ公正ノ證書ヲ  
 記シテ其贈遺ヲ受クルコトヲ承諾シ其證書ノ  
 正本ヲ「ノテイル」ニ渡スコトヲ得可シ然レ此場  
 合ニ於テハ其承諾ヲ為ス證書ヲ贈遺者ニ示  
 シタル日ヨリ後ニ非サレハ其者ニ對シ其効  
 ナカル可シ

第九百三十三條

贈遺ヲ受クル者丁年者ナル

時ハ自カラ其贈遺ヲ承諾シ又ハ其本人ニ代  
 テ特ニ其一箇ノ贈遺ヲ承諾ス可キ權又ハ總  
 テ其者ノ受ク可キ諸般ノ贈遺ヲ承諾ス可キ  
 ノ權ヲ任セラレレ名代人其承諾ヲ為スコト得  
 可シ

此名代人ヲ任スル書ハ「ノテイル」ノ面前ニテ  
 之ヲ記シ其寫書ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ハ  
 置ク可シ若シ又贈遺ノ證書ト贈遺ノ承諾ヲ  
 為ス證書ト異ナル時ハ其寫書ヲ其承諾ヲ為  
 ス證書ノ正本ニ添ハ置ク可シ

第九百三十四條 婚姻シタル婦ハ第二百十七條及ヒ第二百十九條ノ婚姻ニ記スル所ニ循ヒ其夫ノ許諾ヲ得スシテ人ヨリ為シタル贈遺ヲ承諾スルコトヲ得ス又夫ノ許諾セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得スシテ其贈遺ヲ承諾スルコトヲ得ス

第九百三十五條 後見ヲ免レサル幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケン者ニ為シタル贈遺ハ第四百六十三條<sup>幼年後見ニ記スル所ニ循ヒ</sup>其後見人之ヲ承諾ス可シ

後見ヲ免レタル幼者ハ「キラトール」ノ立會ニテ人ヨリ贈遺ヲ承諾ス可シ  
 總テ後見ヲ免レタルト否トヲ問ハス幼者ノ父母又父母ノ生存中ト雖モ其尊屬ノ親ハ自カラ其幼者ノ後見ノ任又ハ「キラトール」ノ任ヲ受ケタルト否トニ係ハラヌ幼者ノ為メニ贈遺ヲ承諾スルコトヲ得可シ  
 第九百三十六條 啞聾者文字ヲ書スルコトヲ知ル時ハ自カラ贈遺ヲ承諾シ又ハ名代人ヲシテ其承諾ヲ為サシムルコトヲ得可シ

若シ亞聾者文字ヲ書スルコトヲ知ラサル時ハ  
 第一篇第十卷幼年後見ニ定メタル規則ニ循  
 等ノ卷  
 ト特ニ任シタル「キ」ラトールヲシテ其贈遺ノ  
 承諾ヲ為サシム可シ

第九百三十七條 貧院又ハ「コムミューン」ノ貧  
 者ノ為メ又ハ衆庶ノ裨益ヲ為サントシテ設  
 ケタル建造物ノ為メナシタル贈遺ハ其貧院  
 又ハ「コムミューン」又ハ建造物ノ支配人別段  
 之ヲ承諾ス可キノ官許ヲ得タル後ニ非レハ  
 其承諾ヲ為ス可カラズ

第九百三十八條 贈遺ヲ受クル者相當ノ式ヲ  
 以テ贈遺ヲ承諾シタル上ハ其贈遺ヲ為ス者  
 ト之ヲ受クル者トノ意ニ因リ其贈遺ヲ為シ  
 終リタルモノト為シ其贈遺ノ財産ヲ所有ス  
 ルノ權ヲ其贈遺ヲ受ケタル者ニ移ス可ク別  
 段ノ法式ヲ用ヒ之ヲ引渡スニ及ハス

第九百三十九條 「イボテ」クト為スヲ得可キ  
 財産ヲ贈遺ト為シタル時ハ其贈遺ト承諾ト  
 ヲ記シタル證書又贈遺ノ證書ト承諾ノ證書  
 ト異ナル時ハ其貳通ノ證書ヲ其財産所在ノ

地ヲ管轄スル「イポテーク」ノ官署ノ簿冊ニ登記ス可シ

第九百四十條 婦前條ニ記スル財産ノ贈遺ヲ受ケタル時ハ夫其贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ求ム可シ若シ夫此式ヲ行ハサル時ハ其婦別ニ裁判所ノ允許ヲ受クルヲナクシテ其證書ヲ登記スルノ求メヲ為スヲ得可シ  
如者又ハ治産ノ禁ヲ受クル者又ハ衆庶ノ裨益ノ為メ設ケタル建造物其贈遺ヲ受クル時

ハ其後見人「キラトール」支配人其贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルノ求メヲ為ス可シ

第九百四十一條 贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲナキ時ハ其贈遺ノ財産ニ管係アル各人他ノ事故ニ付キ訴訟ヲ為ス時ニ當リ其登記ナキ旨ヲ申立ルヲ得可シ但シ其登記ノ求メヲ為ス可キ者又ハ其者ノ權ニ代ル者又ハ贈遺ヲ為ス者ハ之ヲ申立ルヲ得ス

第九百四十二條 幼者、治産ノ禁ヲ受ケレ者、婚姻シタル婦ハ贈遺ヲ承諾スル事及ヒ贈遺又ハ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル事ヲ其後見人又ハ其夫ノ怠リタル時自カラ之ヲ怠リタルニ等シキ責ニ任ス可ク唯其後見人又ハ其夫ニ對シ損失ノ償ヲ訴フ可キ道理アル時ハ之ヲ訴フルコトヲ得可シ但シ其後見人又ハ夫ヨリ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケレ者又ハ婦ニ其損失ノ償ヲ為スト能ハサル時ト雖モ此等ノ者ハ其後見人又ハ夫ノ怠リタル責

ヲ免ル、コトヲ得ス

第九百四十三條 生存中ノ贈遺ハ贈遺ヲ為ス者ノ現在所有スル財産ノミニ限ル可シ若シ其贈遺ノ契約書中ニ贈遺者日後所有ト為スコトアル可キ財産ヲ記シタルト雖モ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十四條 若シ贈遺ヲ為ス者ノミノ意ニ管スル契約ヲ以テ生存中ノ贈遺ヲ為シタル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十五條 又生存中ノ贈遺ヲ受クル者

ヲシテ其贈遺ノ時現ニ在ル以外ノ負債又ハ贈遺ノ證書及ヒ其證書ニ附加ス可キ目錄ニ記シタル以外ノ負債ヲ償ハシム可キノ契約ヲ以テ贈遺ヲ為タル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十六條 生存中ノ贈遺ヲ為ス者其贈遺ト為シタル財産中ノ品物又ハ贈遺ト為シタル財産中ノ定數ノ金高ヲ自己ノ意ニ隨ヒ自由ニ取扱フ可キノ權ヲ特ニ保有シ其權ヲ行フコトナク死シタル時ハ其贈遺ヲ受ケタル

者ノ為メ如何ナル契約アルヲ問ハス其品物又ハ其金高ヲ贈遺者ノ遺物相續人所得ト為ス可シ

第九百四十七條 前四條ハ此卷ノ第八章及ヒ第九章ニ記載スル所ノ贈遺ニ通シテ用フ可カラス

第九百四十八條 動産ノ贈遺ヲ為ス時ハ其動産ノ評價書ヲ記シ贈遺ヲ為ス者及ヒ之ヲ受クル者又ハ贈遺ヲ受クル者ノ為メ其贈遺ヲ承諾スル者之ニ姓名ヲ手署シ其評價書ヲ贈

遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ置クニ非サレハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十九條 動産又ハ不動産ノ贈遺ヲ為ス者ハ其入額ヲ所得トスルノ權ヲ己レニ保チ置キ又ハ他人ノ為メニ保チ置クヲ得可シ

第九百五十條 動産ノ贈遺ヲ為ス者其動産ノ入額ヲ得可キノ權ヲ己レニ保チ置キタル時ハ贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ為タル者ノ入額ヲ所得トスル權ノ終ル時存在スル動産ニ付テ

ハ其時ノ形狀ノ儘之ヲ受取り又存在セサル財産ニ付テハ以前贈遺ヲ為シタル時ニ記シタル評價書ニ從ヒ其代金ヲ得可キヲ其贈遺者又ハ其遺物相續人ニ對シ訴フルヲ得可シ

第九百五十一條 若シ贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ為ス者ヨリ先キニ死去スル時又ハ贈遺ヲ受クル者ト其卑屬ノ親ト贈遺ヲ為ス者ヨリ先キニ死去スル時ハ其贈遺者贈遺ト為タル財産ヲ取戻ス可キノ契約ヲ贈遺ヲ受クル者ト



共ニ為スコトヲ得可シ  
此權ハ贈遺ヲ為ス者ノミノ利益ノ為メ之ヲ  
契約スルコトヲ得可シ

第九百五十二條 前條ノ如ク贈遺ト為シタル  
財産ヲ取戻ス可キノ約定アル時ハ贈遺ヲ受  
ケル者ヨリ其贈遺ノ財産ヲ他人ニ賣渡シタ  
ル契約ヲ廢棄シ且其財産ニ付キ擔當ス可キノ  
負債及ヒ「イポテーク」ノ負債ヲ滌掃シテ贈遺  
ヲ為タル者ニ之ヲ取戻スコトヲ得可シ○然レ  
其贈遺ヲ受クル者ノ婚姻ノ契約書ニ此贈遺

ノ旨ヲ附記セシ時後ニ其贈遺ヲ受ケタル者  
死去シテ其元來所有スル財産ノミニテハ其  
配偶者ノ嫁資ヲ償ヒ又ハ其他婚姻ノ契約ノ  
如ク執行フト能ハサル時ハ嘗テ贈遺ヲ為シ  
タル者其財産ニ付キ擔當ス可キノ負債ヲ滌掃  
シテ之ヲ取戻スコトヲ得ス

○第二款 生存中ノ贈遺ノ證書ヲ發  
棄ス可カラサル規則外ノ諸件

第九百五十三條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ贈遺  
ヲ受クル者其贈遺ヲ受クルニ付キ契約シタ

ル諸件ヲ執行ハサル事又ハ恩義ヲ忘ル、事  
又ハ贈遺ヲ為ス者其贈遺ヲ為シタル後ニ子  
ノ出生スル事ニ因リ之ヲ廢棄スルコトヲ得可  
シ

第九百五十四條 贈遺ヲ受クルニ付キ契約シ  
タル諸件ヲ執行ハサルヲ以テ贈遺ノ證書ヲ  
廢棄シタル時ハ贈遺ヲ受ケタル者ノ擔當ス  
可キ負債及ヒ「イポテーク」ノ負債ヲ滌掃シテ  
其贈遺ヲ為タル者其財産ヲ取戻シ且其贈遺  
ヲ為シタル者ハ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ

為ス可キ所ニ等シキ訴訟ヲ贈遺ヲ受ケタル  
者ヨリ其贈遺ノ不動産ヲ得タル者ニ對シ為  
コトヲ得可シ

第九百五十五條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ左ノ  
場合ニ於テ恩義ヲ忘レタル事ニ因リ之ヲ廢  
棄スルコトヲ得可シ

第一 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル  
者ノ性命ヲ害セントシタル時

第二 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル  
者ニ對シ暴行罪犯又ハ至重ノ禍害ヲ

為シタル時

第三 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル者ニ養料ヲ給スルヲ肯セサル時

第九百五十六條 贈遺ヲ受クルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハス又ハ恩義ヲ忘レタルニ因リ生存中ノ贈遺ノ證書ヲ廢棄スル事ハ其贈遺ヲ為ス者ノ自己ノ權ノミヲ以テ之ヲ為ス可カラズ必ス裁判所ニ訴ヘ出シタル上ニテ之ヲ為ス可シ

第九百五十七條 恩義ヲ忘レタルニ因リ贈遺

ノ證書ヲ廢棄スルノ訴ハ贈遺ヲ為シタル者其贈遺ヲ受ケタル者ヨリ害ヲ蒙リタルト述ヘシ日ヨリ一年内又ハ贈遺ヲ為タル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ行フタル罪犯ヲ知り得タル日ヨリ一年内ニ之ヲ為ス可シ  
其贈遺ノ證書ヲ廢棄スルノ訴ハ贈遺ヲ為シタル者ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ノ遺物相續人ニ對シテ之ヲ為ス可カラズ又贈遺ヲ為シタル者ノ遺物相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ之ヲ為ス可カラズ但シ贈遺ヲ為シタル

ル者其訴ヲ為シ其未タ決定セサル内ニ死去  
 シタル時又ハ贈遺ヲ為シタル者其訴ヲ為サ  
 スト雖モ贈遺ヲ受ケタル者ノ罪犯ヲ行フタ  
 ルヨリ一年内ニ死去シタル時ハ贈遺ヲ為シ  
 タル者ノ遺物相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者  
 ニ對シテ其訴ヲ為スヲ得可シ

第九百五十八條 第九百三十九條ニ記シタル  
 如ク不動産ノ贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ  
 公正ニ為ス可キカ為メ之ヲ官署ノ簿冊ニ登  
 記シタル端ニ贈遺ヲ受ケタル者恩義ヲ忘レ

タルニ因リ其贈遺ノ證書ヲ廢棄セント訴フ  
 ル書面ヲ附記スル前ニ其贈遺ヲ受ケタル者  
 其贈遺ノ不動産ヲ賣拂ヒ又ハ其不動産ヲ「イ  
 ポテ」ト為シ又ハ其他ノ方法ニテ負債ノ  
 質ト為シタル時ハ其贈遺ノ證書ヲ廢棄スル  
 ト雖モ其賣拂ヒノ契約又ハ負債ノ質ノ契約  
 ヲ廢棄ス可カラズ  
 此場合ニ於テ不動産贈遺ノ證書ヲ廢棄シタ  
 ル時ハ其廢棄ノ訴ヲ為タル時ノ其不動産ノ  
 價并ニ其訴ノ日ヨリ以來ノ其入額ヲ贈遺ヲ

受ケタル者ヨリ贈遺ヲ為シタル者ニ償還ス  
可シ

第九百五十九條 婚姻ノ為メナシタル贈遺ハ

恩義ヲ忘レタルヲ以テ之ヲ廢棄ス可カラス

第九百六十條 子及ヒ卑屬ノ親ナキ者ノ為シ

タル生存中ノ贈遺ノ證書ハ其贈遺ノ財産ノ

價ト其贈遺ノ名義トノ如何ナルヲ問ハス又

其贈遺ヲ相互ニ為シ又ハ酬謝ノタメ之ヲ為

シ又ハ婚姻ノ為メ之ヲナシタルト雖モ贈遺

ヲ為シタル者ノ生存中又ハ死後ニ其嫡出ノ

子ノ生レシ時又ハ其贈遺ヲ為シタル後ニ生

レタル私生ノ子ヲ後ノ婚姻ニ因テ嫡出ノ子

ト認メタル時ハ別ニ裁判所ニ訴ヘ出サヌト

雖モ其證書ヲ廢棄ス可シ但シ尊屬ノ親ヨリ

其卑屬ノ親タル夫婦ノ者ニ為シ又ハ夫婦ノ

互ニ為シタル贈遺ハ格別ナリトス

第九百六十一條 贈遺ヲ為ス時其子既ニ母ノ

胎内ニアリシ時ト雖モ其子ノ出生シタルニ

因リ亦前條一記スル所ノ如ク贈遺ノ證書ヲ

廢棄ス可シ

第九百六十二條 若シ贈遺ヲ為シタル者ノ子  
 出生シタル後贈遺ヲ受ケシ者猶其贈遺ノ財  
 産ヲ所有シ且贈遺ヲ為シタル者之ヲ拒マレサ  
 ル時ト雖モ亦其贈遺ノ効ヲカル可シ但シ此  
 場合ニ於テハ贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタ  
 ル者ノ子ノ出生シタル事又ハ私生ノ子ヲ後  
 ノ婚姻ニ因テ嫡出ノ子ト認メタル事ノ相當  
 ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ後ニ其贈遺ノ財産  
 ヨリ得タル利益ヲ還與ス可シ又贈遺ヲ為シ  
 タル者其子ノ出生シタル事又ハ私生ノ子ヲ

嫡出ノ子ナリト認メタル事ヲ贈遺ヲ受ケシ  
 者ニ報告シタル後ニ其贈遺ノ財産ヲ取戻サ  
 シト訴ヘタル時モ亦其報告後ニ其財産ヨリ  
 得タル利益ヲ還與ス可シ

第九百六十三條 廢棄シタル贈遺ノ證書中ノ

財産ハ其贈遺ヲ受ケシ者其財産ニ付キ擔當  
 レタル負債及ヒイボテークノ負債ヲ滌掃シ  
 テ之ヲ贈遺ヲ為シタル者ニ還ス可ク其贈遺  
 ヲ受ケタル者其婦ノ嫁資ヲ還ス事又ハ婦ト  
 共通シタル財産ノ一部ヲ其婦ニ還ス事又ハ

其他婚姻ノ契約ノ如ク行フ事ノ為メニ決シ  
 テ其贈遺ノ財産ヲ用フ可カラズ但シ其贈遺  
 ヲ為シタル者贈遺ヲ受ケシ者ノ婚姻ノ為メ  
 其財産ヲ贈與シテ其旨ヲ婚姻ノ契約書中ニ  
 附記シ且ツ贈遺ヲ為シタル者其贈遺ノ財産  
 ヲ以テ必ス婚姻ノ契約書ノ如ク行ハシム可  
 キノ保證者タル時ト雖モ亦前ニ記シタル所  
 ニ等シカル可シ

第九百六十四條 廢棄シタル贈遺ノ證書ハ其  
 贈遺ヲ為シタル者ノ子死去スルト雖モ又ハ

贈遺ヲ為シタル者贈遺ヲ受ケシ者ニ其儘其  
 財産ヲ與ヘ置ク可キノ證書ヲ記シタルト雖  
 モ再ヒ其効ヲ生スルトナカル可シ若シ其贈  
 遺ヲ為シタル者其廢棄シタル贈遺ノ證書中  
 ノ財産ヲ其贈遺ヲ受ケシ者ニ是迄ノ如ク再  
 ヒ與ヘント欲スル時ハ其出生シタル子ノ死  
 生ニ管セズ更ニ新ニ其財産ヲ贈遺スルノ證  
 書ヲ記ス可シ

第九百六十五條 贈遺ヲ為ス者縱令子ノ出生  
 スルコトアリトモ其贈遺ノ證書ヲ廢棄セサル

可シトノ契約ハ全ク其効ナカル可シ

第九百六十六條 贈遺ヲ受ケタル者又ハ其遺物相續人又ハ其權ニ代ル者又ハ其他贈遺ノ財産ヲ占有スル者ハ其財産ヲ三十年間占有シタル後ニ非レハ贈遺ヲ為シタル者ノ子ノ出生シタルニ因リ其効ヲ失フタル贈遺ノ證書中ノ財産ヲ己レノ所有ト為サントシテ「ブ」レスクリブ「シ」ラ速ブル「ト」ヲ得ス但レ其三十年ノ期限ハ贈遺ヲ為シタル者ノ死後ニ生レシ子ト雖モ其季子ノ生レシ日ヨリ之ヲ算

計シ若シ其占有者其期限間ニ其所有ノ權ニ付テノ訴訟ヲ受クル時ハ「ブ」レスクリブ「シ」ラノ權ヲ失フ可シ

○第五章 遺囑ノ贈遺

○第一款 遺囑ノ贈遺ノ法式ニ付テ

ノ總規則

第九百六十七條 如何ナル人ト雖モ別段相續人ヲ任スルノ名義又ハ死後ノ贈遺ノ名義又ハ其他自己ノ意ヲ表スル名義ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ為ス「ト」ヲ得可シ



第九百六十八條 二人以上ニテ他人ノ為メ贈遺ヲ為ス、名義又ハ相互ニ贈遺ヲ為スノ名義ヲ用ヒ一通ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ為ス可カラス

第九百六十九條 遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者自筆ノ書又ハ公正ノ書又ハ秘密ノ書ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得可シ

第九百七十條 遺囑者自筆ノ贈遺ノ證書ハ其者其全文年月並ニ自己ノ姓名ヲ手記シタルニ非レハ其効ナカル可シ但シ其他ノ法式ハ

之ヲ用フルニ及ハス

第九百七十一條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書トハ證人二人ノ面前ニテ「ノテイル」二人之ヲ公證シ又ハ證人四人ノ面前ニテ「ノテイル」一人之ヲ公證シタル書ヲ云フ

第九百七十二條 「ノテイル」二人ニテ公正ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ公證シタル時ハ遺囑者其「ノテイル」二人ニ遺囑贈遺ノ文ヲ口授シ「ノテイル」中ノ一人其口授ノ如ク之ヲ筆記ス可シ「ノテイル」一人ノミナル時モ亦其遺囑者遺囑

贈遺ヲ為ス文ヲ口授シテ其ノテイル之ヲ筆記ス可シ

此二箇中何レノ場合ニ於テモ「テイル」ノ記シタル遺囑贈遺ノ證書ヲ證人ノ面前ニテ其遺囑者ニ讀ミ聞ス可シ

此等ノ諸事ヲ行ヒシ事ハ別段其證書中ニ附記ス可シ

第九百七十三條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者已レノ姓名ヲ手署ス可シ若シ遺囑者手署スルコトヲ知ラス又ハ手署スルコト能ハサル

昔ヲ述フル時ハ其述フル所ト手署スルコト能ハサルノ原由トヲ其證書中ニ附記ス可シ

第九百七十四條 公正ノ遺囑贈遺ノ證書ハ証人其姓名ヲ手署ス可シ但シ村邑ニ於テ「テイル」二人其遺囑書ヲ公證スル時ハ證人二人中ノ一人其姓名ヲ手署スルヲ以テ足レリトス又「テイル」一人之ヲ公證スル時ハ證人四人中ノ二人其姓名ヲ手署スルヲ以テ足レリトス

第九百七十五條 凡ソ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者

又ハ其者ノ第四級ニ至ル迄ノ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ其書ヲ公證スルノテイルノ書記役ハ公正ノ遺囑書ノ證人タル可カラス

第九百七十六條 遺囑者秘密ノ遺囑書ヲ作ラント欲スル時ハ自カラ其遺囑書ヲ記シタルト他人ヲシテ之ヲ記セシメタルトヲ問ハス遺囑者其遺囑書ニ自己ノ姓名ヲ手署ス可シ

○其遺囑書ヲ記シタル紙又封紙ヲ用ヒシ時ハ其封紙ニ封ヲ為シテ印ヲ押ス可シ○遺囑者ハ其遺囑書ニ上ノ如ク封ヲ為シ且印ヲ押

シテ「ノテイル」一人ト證人六人以上トニ之ヲ渡シタル上又ハ其「ノテイル」及ヒ證人ノ面前ニテ其遺囑書ニ封ヲ為シ且印ヲ押シタル上其紙上ニ記スル所ハ自カラ其文ト姓名トヲ記シタル遺囑書タル「又ハ他人ヲシテ其文ヲ記セシメ自カラ其姓名ヲ記シタル遺囑書タル」ヲ述フ可シ然ル時「ノテイル」ハ其申述ノ旨ヲ其紙又ハ封紙ノ表ニ記シ「ノテイル」及ヒ遺囑者並ニ各證人皆自己ノ姓名ヲ其表書ニ手署ス可シ○此等ノ諸事ハ相繼テ之ヲ為

ス可ク其時間他ノ證書類ノ取扱ニ移ル可カ  
 ラス若シ遺囑者其遺囑書ニ姓名ヲ手署セシ  
 後差支ノ生スルコトアリテ表書ニ其姓名ヲ手  
 署スルコト能ハサル時ハ其旨ノ申述ヲ附記ス  
 可シ但シ此場合ニ於テ別ニ證人ノ負數ヲ増  
 スニ及ハス

第九百七十七條 若シ又遺囑者元來自己ノ姓  
 名ヲ手署スルコトヲ知ラス又ハ遺囑書ヲ他人  
 ニ記セシメシ時其姓名ヲ手署スルコト能ハサ  
 ル場合ニ於テハ表書ニ姓名ヲ手署ス可キ為

メ前條ニ記シタル證人ノ定員外ニ更ニ證人  
 一人ヲ呼出シ其證人他ノ證人ト共ニ表書ニ  
 其姓名ヲ手署ス可シ但シ此場合ニ於テハ別  
 段其證人ヲ呼出シタル原由ヲ表書ニ附記ス  
 可シ

第九百七十八條 文字ヲ讀ムコトヲ知ラサル者  
 又ハ文字ヲ讀ムコト能ハサル者ハ秘密ノ遺囑  
 書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ為ス可カラス

第九百七十九條 遺囑者言語ヲ發スルコト能ハ  
 スレテ文字ヲ書スルコトヲ得可キ時ハ遺囑書

ノ全文ヲ手記シ且年月及ヒ姓名ヲ手記シテ  
 其遺囑書ヲ「<sup>1</sup>」テイル<sup>2</sup>及ヒ證人ニ渡シ其書ハ  
 自己ノ遺囑書タル<sup>3</sup>「<sup>1</sup>」テイル<sup>2</sup>并ニ證人ノ  
 面前ニテ表書ノ初ニ記シ其後<sup>4</sup>「<sup>1</sup>」テイル<sup>2</sup>ハ自  
 己ト證入トノ面前ニテ遺囑者同上ノ事ヲ記  
 シタル旨ヲ表書ニ記ス可シ但シ其餘ノ法式  
 ハ第九百七十六條ニ記載スル所ニ循フ可シ  
 第九百八十條 遺囑書ヲ記スル時其席ニ立會  
 フ可キ證人ハ民權ヲ受ケタル佛蘭西人ニシ  
 テ且丁年ニ至リシ男ニ限ル可シ

○第二款 別段ノ遺囑贈遺ノ法式ニ  
 付テノ規則

第九百八十一條 兵士又ハ兵隊中ニテ使用セ  
 ラル、者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ何レノ國ニ於  
 テ之ヲ記スルト雖モ步兵大隊長又ハ騎兵大  
 隊長又ハ其他ノ上等士官證人二人ノ面前ニ  
 テ之ヲ公證シ又ハ兵隊ノ諸務ヲ管理スル官  
 吏二人又ハ一人證人二人ノ面前ニテ之ヲ公  
 證ス可シ

第九百八十二條 若シ又遺囑ノ贈遺ヲ為ス者

病ニ罹リ又ハ創傷ヲ被リテ兵病院ニアル時  
ハ病院監察ノ任ヲ受ケシ兵官ノ立會ニテ兵  
部警官其遺囑書ヲ公證ス可シ

第九百八十三條 前二條ノ規則ハ佛蘭西領地  
外ニ發遣シタル兵隊中又ハ其領地外ノ屯營  
又ハ城寨中ニアル者及ヒ敵ニ虜獲セラレタ  
ル者ノ為メ設タル所ニシテ佛蘭西領地内ノ  
屯營及ヒ城寨中ニアル者ハ其所在ノ屯營及  
ヒ城寨敵兵ノ攻圍ヲ受ケ又ハ其所在ノ地戰  
鬪ノ為メニ其門ヲ鎖閉シテ内外相通セザル

時ノ外其規則ヲ用フ可カラス

第九百八十四條 第九百八十一條及ヒ第九百  
八十二條ニ記シタル法式ヲ用ヒ記シタル遺  
囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者通常ノ法式ヲ以テ  
遺囑ノ贈遺ヲ為スル自由ナル地ニ歸來シタ  
ルヨリ六月ノ後ニ至ラハ其効ナカル可シ  
第九百八十五條 時疫及ヒ其他傳染病ノ為メ  
外地ト全ク往來スルヲ得サル地内ニテ記  
スル遺囑贈遺ノ證書ハ證人二人ノ面前ニテ  
最下等裁判所ノ裁判役又ハ其「コムニユール」

ノ官吏一頁之ヲ公證スルヲ得可シ

第九百八十六條 此規則ハ現ニ其病ニ罹リシ者又ハ現ニ其病ニ罹ラスト雖モ其病ノ流傳シタル地ニ在ル者ノ為メ之ヲ用フルヲ得可シ

第九百八十七條 其遺囑者所在ノ地再ヒ外地ト往来ヲ為スヲ自由トナリシヨリ六月ノ後又ハ其遺囑者自由ニ往来ヲ為スヲ得可キ地ニ移轉シタルヨリ六月ノ後ニ至ル時ハ前二條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ノ効ナカル

可シ

第九百八十八條 航海中海上ニテ記スル遺囑贈遺ノ證書ヲ公證スル方法左ノ如シ

兵船又ハ其他ノ官船ニ於テハ其船ノ指揮官若シ指揮官在ラサル時ハ之ニ代ル可キ次官其船ノ諸務ヲ管理スル官吏又ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ  
商船ニ於テハ其船ノ書類ヲ預カル者又ハ之ニ代ル可キ者其船ノ船長若シ船長在ラサル時ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證

書ヲ公證ス可シ  
此條中ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ證人  
二人ノ面前ニテ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス  
ルヲ必要トス

第九百八十九條 兵船又ハ官船ノ指揮官及ヒ  
其船ノ諸務ヲ管理スル官吏ノ遺囑贈遺ノ證  
書又ハ商船ノ船長及ヒ其船ノ書類ヲ預カル  
者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其次席ノ者之ヲ公證  
ス可シ但シ其他ノ諸事ハ前條ノ規則ニ循ヒ  
之ヲ為ス可シ

第九百九十條 何レノ場合ニ於テモ前二條ニ  
記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ貳通ニ記ス  
可シ

第九百九十一條 其船佛蘭西岡士ノ在留スル  
外國ノ港ニ着スル時ハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ  
公證セシ者其證書一通ニ封ヲ為シ且印ヲ押  
シタル上ニテ之ヲ其岡士ニ渡シ岡士之ヲ海  
軍事務執政ニ送呈シ執政其遺囑者住所ノ地  
ノ最下等裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏メシム可  
シ



第九百九十二條 其船ヲ艤裝シタル佛蘭西ノ港又ハ之ヲ艤裝シタルニ非サル佛蘭西ノ港ニ歸船シタル時ハ亦其遺囑贈遺ノ證書ニ通ニ封ヲ為シ且印ヲ押シタル上若シ又前條ニ記スル所ノ如ク航海中既ニ其一通ヲ岡士ニ渡シタル時ハ他ノ一通ニ封ヲ為シ且ツ印ヲ押シタル上之ヲ海軍兵士召募ノ官署ニ納メ其官署ノ官吏直チニ之ヲ海軍事務執政ニ送呈シ其執政前條ニ記スル所ノ如ク遺囑者住所ノ地ノ最下等裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏メ

シム可シ

第九百九十三條 其船ノ乗組人姓名簿ノ中其遺囑者ノ姓名ヲ記シタル端ニ岡士又ハ海軍兵士召募ノ官署ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ渡シタル旨ヲ附記ス可シ

第九百九十四條 航海旅行中ト雖モ佛蘭西官吏ノ在留スル外國ノ領地又ハ佛蘭西ノ領地ニ著船シタル後遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタルニ於テハ其贈遺ノ證書ヲ海上ニテ記シタルモノト看做ス可カラス但シ此場合ニ於テハ

佛蘭西ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ又ハ其贈遺ノ證書ヲ記シタル國ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ之ヲ記セサレハ其効ナカル可シ

第九百九十五條 前數條ニ記載シタル規則ハ船ノ乗組人ニ非サル通常ノ旅客ノ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニモ亦通シテ用フ可シ

第九百九十六條 第九百八十八條ニ記シタル法式ヲ用ヒ海上ニテ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者海上ニテ死去シタル時又ハ通常ノ法式ヲ用ヒ之ヲ改記スルヲ得可キ地

ニ上陸シタルヨリ三月内ニ死去シタル時ノ外其効ナカル可シ

第九百九十七條 海上ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル時ハ船ノ士官及ヒ船中ニテ職務ヲ為ス者ノ為メ其贈遺ヲ為ス可カラズ但シ此等ノ者其贈遺ヲ為ス者ノ親族タル時ハ格別ナリトス

第九百九十八條 此款ノ前數條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者ト其證書ヲ公證シタル者ト其姓名ヲ手署ス可シ

若シ遺囑者姓名ヲ手署スル事ヲ知ラス又ハ  
 手署スルコト能ハサル旨ヲ述フル時ハ其述フ  
 ル所ト其手署スルコトヲ得サル原由トヲ附記  
 ス可シ  
 證人二人ノ立會ノ必要ナル時ハ其證人二人  
 又ハ其中ノ一人其遺囑贈遺ノ證書ニ姓名ヲ  
 手署ス可シ但シ姓名ヲ手署シタル證人一人  
 ノミナル時ハ他ノ一人姓名ヲ手署セサル原  
 由ヲ附記ス可シ

第九百九十九條 外國ニ在ル佛蘭西人ハ第九

百七十條ニ記シタル如ク自筆ノ私書ヲ以テ  
 遺囑ノ贈遺ヲ為シ又ハ其國ニテ用フル所ノ  
 法式ニ循ヒ記シタル公正ノ證書ヲ以テ遺囑  
 ノ贈遺ヲ為スコトヲ得可シ

第一千條 外國ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタル

佛蘭西人ノ住所現時佛蘭西國內ニ在ル時ハ  
 其住所ノ官署ノ簿冊ニ其證書ヲ登記シタル  
 後若シ又其住所現時佛蘭西國內ニアラサル  
 時ハ人ノ通知シタル佛蘭西國內ニアル最終  
 ノ住所ノ官署ノ簿冊ニ之ヲ登記シタル後ニ

非レハ佛蘭西國內ニ在ル動産ニ付キ其證書  
 ノ如ク執行フコトヲ得ス又其遺囑贈遺ノ證書  
 ニ佛蘭西國內ニアル不動産ヲ贈遺ト為ス  
 ヲ記シタル時ハ前文ニ記スル所ノ外更ニ其  
 不動産所在ノ地ノ官署ノ簿冊ニモ亦其證書  
 ヲ登記スルヲ必要トス但シ斯ノ如ク其證書  
 ヲ二箇ノ簿冊ニ登記スルト雖モ二倍ノ税銀  
 ヲ出タスニ及ハス

第一千一條 此款及ヒ前款ノ規則ニ循ヒ諸般ノ  
 遺囑贈遺ノ證書ヲ記ス可キ法式ハ必ス之ヲ

循守ス可シ若シ之ヲ循守セサル時ハ其證書  
 ノ効ナカル可シ

辻士革筆受

佛蘭西民法六終  
 法律書



